

住環境整備支援と居住継続状況との関係

－ 自宅退院後の住環境に対する認識、移動行動、ADLとの関係－

The relationship between the residents continued situation and living environment support

太田智之 (OT) ^{1,2)}, 橋本美芽(工学博士)³⁾

- 1)医療法人財団健和会補助器具センター
- 2)首都大学東京大学院人間健康科学研究科博士後期課程
- 3)首都大学東京大学院人間健康科学研究科

【1. 背景・目的】

<背景・課題>

(1) 団塊の世代における居住継続へのニーズ

2025年以降に後期高齢者となる団塊の世代の持ち家率や、「今住んでいる家に住み続けたい」という意向を持つ者の割合は共に8割を超える(内閣府:平成29年度版高齢者白書、平成24年度団塊の世代の意識に関する調査)。

(2) すまいにおける高齢期のニーズと現状との乖離

地域包括ケアシステムは高齢期のニーズを満たした住宅供給が前提となっている(井上, 2012)が、高齢期にふさわしい生活環境の供給や整備はかならずしも十分でなく、消極的理由で転居を選択する事もある(鈴木, 2012)。



(3) 機能的合理性に基づく住環境整備と本人認識との乖離

自宅退院時等、自立度や機能的価値基準に基づき提案・提供される物理的住環境の合理性と、これに対する当事者の認識との間に乖離があり、利用率や満足度に影響している(筒井ら, 2003. 坂地ら, 2008. 上村, 2008)。

障害高齢者の「すまい」にまつわる物理的環境への認識は「すまい方」にどのように影響しているのだろうか？これを踏まえた効果的な住環境整備の在り方とは何か？

<目的>

住環境整備の実施状況が、自宅退院した障害高齢者の住環境に対する認識や行動、退院後のADLに与える影響を検討する

【3. 結果】74組より回答が得られた(回答率: 94.9%)

(1) 対象者の基本属性・度数分布

	自宅退院後 6ヶ月以上1年未満 (n=28)			自宅退院後 1年以上2年未満 (n=21)			自宅退院後 2年以上 (n=25)				
	調整群(n=12)	非調整群(n=16)	p値	調整群(n=12)	非調整群(n=9)	p値	調整群(n=13)	非調整群(n=12)	p値		
居住継続期間(日)退院時-調査時	251.75±48.34	277.44±89.00	0.895	554.25±117.96	531.33±100.09	0.644	969.67±174.583	880.08±239.79	0.300		
年齢	79.58±11.69	77.00±9.45	0.523	84.83±8.07	81.56±5.27	0.303	79.56±10.00	78.75±6.03	0.869		
性別(男/女)	2/10	6/10	0.401	8/4	3/6	0.198	9/4	5/7	0.408		
基礎情報											
主疾患名(脳血管/整形/その他)	2/9/1	9/7/0	0.195	3/8/1	1/7/1	0.772	8/5/0	3/7/2	0.121		
退院時BI	66.25±31.10	77.5±20.77	0.333	62.92±26.64	78.33±16.73	0.181	58.77±23.81	79.55±23.82	0.056		
退院時MMSE	26.75±2.18	25.81±2.76	0.231	25.50±1.45	26.78±2.11	0.109	26.08±2.40	25.75±1.91	0.117		
要介護度	3.0±1.10	3.36±0.97	0.923	3.33±0.96	3.0±0.67	0.638	3.30±0.95	2.57±1.04	0.055		
同居家族(人)	2.08±1.00	2.20±1.01	0.767	2.50±1.73	2.44±1.24	0.898	2.77±1.589	1.92±1.08	0.720		
社会経済的											
教育歴	高卒以上/未満	1/11	6/10	0.184	9/3	3/6	0.087	10/3	7/4	0.659	
等価所得	200万以上/未満	4/8	5/11	1.000	7/5	5/4	1.000	7/6	6/6	0.848	
活用状況	持ち家/賃貸	10/2	8/7	0.217	10/2	6/3	0.611	13/0	5/7	0.015*	
階数	1階/2階以上	10/2	7/8	0.107	8/4	5/4	0.673	9/4	7/5	0.688	
サービス利用状況	小規模多機能利用(あり/なし)	4/8	0/16	0.024*	3/9	1/8	0.603	2/11	2/10	1.00	
訪問リハ(あり/なし)	7/5	2/14	0.017*	5/7	2/7	0.642	9/4	1/11	0.004**		
退院時の											
住宅改修箇所	玄関改修(あり/なし)	2/10	11/5	0.009**	6/6	6/3	0.660	3/10	7/5	0.206	
廊下(あり/なし)	1/11	9/7	0.016*	4/8	6/8	0.198	1/12	7/5	0.011*		
環境整備内容	福祉用具	設置型手すり(あり/なし)	7/5	2/13	0.037*	7/5	3/6	0.387	7/5	2/10	0.037*
住環境に対する											
認識	水まわり段差	あり/なし	5/7	7/9	0.912	4/8	3/6	1.000	5/8	11/1	0.011*
玄関～敷地に段差	あり/なし	5/7	14/2	0.017*	3/9	6/3	0.087	4/9	10/2	0.015*	
外出不安	あり/なし	9/3	7/8	0.067	5/7	4/5	1.000	3/10	7/5	0.111	
移動行動	外出頻度	週1回以上/未満	9/3	4/12	0.020*	7/5	6/3	0.387	3/10	5/7	0.111
転倒	あり/なし	2/10	9/6	0.067	9/3	6/9	0.121	9/4	7/5	0.675	

① 退院時の環境整備内容

調整群 : 改修頻度は低く、「6ヶ月以上1年未満」と「2年以上」の集団では、状況に応じ設定変更が可能な設置型手すりの利用が多かった
非調整群 : 玄関改修、廊下の改修の頻度が高かった

② 住環境に対する認識と移動行動

非調整群 : 「6ヶ月以上1年未満」において「玄関～敷地における段差」を認識している者が多く、外出の頻度も少ない不活発な傾向にあった

(2) ADL変化量の比較(調査時BI値-退院時BI値)

	自宅退院後 6ヶ月以上1年未満 (n=28)			自宅退院後 1年以上2年未満 (n=21)			自宅退院後 2年以上 (n=25)		
	調整群(n=12)	非調整群(n=16)	p値	調整群(n=12)	非調整群(n=9)	p値	調整群(n=13)	非調整群(n=12)	p値
食事	-0.42±1.44	-1.88±3.10	0.121	-1.25±2.26	-0.77±1.88	0.689	-0.77±1.88	-0.83±1.95	1.000
トイレ動作	-0.42±1.44	-3.75±2.24	0.001**	-0.42±1.44	-1.54±2.40	0.347	-0.38±1.39	-1.25±2.27	0.470
階段	-0.83±1.95	-3.44±3.52	0.066	-1.67±3.89	-1.92±2.53	0.538	-1.15±3.00	-1.67±2.46	0.538
更衣	-0.42±1.44	-0.94±2.02	0.664	-0.83±2.89	-0.77±1.88	0.936	-1.15±3.00	-1.25±2.26	0.936
移乗	-0.83±1.95	-4.06±3.75	0.029*	-0.83±1.95	-3.46±3.15	0.003**	-1.54±3.76	-3.33±3.26	0.247
平地歩行	-0.42±1.44	-4.06±2.72	0.002**	-0.42±1.44	-2.31±2.59	0.030*	-0.77±3.44	-1.25±2.26	0.574
排尿	-0.83±1.95	-0.94±2.02	0.945	0.00±2.13	0.77±2.77	0.769	-1.54±3.12	-0.42±1.44	0.347
排便	-0.42±1.44	0.00±2.58	0.767	-0.42±1.44	-0.77±1.88	0.347	-0.77±2.77	-0.42±1.44	0.769
整容	-0.83±1.95	-1.56±2.39	0.537	-0.83±1.95	-1.15±2.19	0.810	0.38±2.47	-0.83±1.95	0.376
入浴	-0.42±1.44	-2.81±2.56	0.011*	-2.08±2.58	-1.54±2.40	0.650	-2.31±2.59	-0.83±1.95	0.225
総合	-5.83±6.34	-23.44±8.70	0.000***	-4.58±10.33	-13.46±13.13	0.123	-10.38±12.16	-7.73±7.862	0.728

調整群

・非調整群と比較し、ADL低下の進行は緩やかな傾向であった

非調整群

・「6ヶ月以上1年未満」においてトイレ動作、移乗、平地歩行、入浴の自立度が低下していた
・「1年以上2年未満」では移乗、平地歩行が低下していた

(3) 退院後における住環境整備追加実施の内容

- ① 住宅改修 : 玄関 (30.8%)、トイレ (23.1%)、廊下 (17.9%)
 - ② 福祉用具 : 歩行器 (33.3%)、車椅子 (30.8%)、据え置き式手すり (30.8%)
- 外出や移動、セルフケアに関する変更・追加が主であった

【4. 考察】

- ・退院時の一度で住宅改修や福祉用具の設定を固定化するよりも、その後の状況変化を前提とした住環境整備が、ADL低下を遅延させる可能性がある
- ・自宅退院後における生活の具体的な課題に伴走しながら、障害高齢者がどのようにその環境を体験しているのかに着目した縦断的な環境整備が効果的ではないか

【5. 結論】

単に物理的な環境を整備するだけではなく、障害高齢者の生活経験や認識に対し、共に検証・工夫し改善する伴走的なアプローチが求められる

【参考文献】1) 内閣府：平成29年度版 高齢社会白書(オンライン)、入手先 (http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/zenbun/pdf/1s2s_03.pdf),(参照2017-10-20).

2) 内閣府：平成24年度団塊の世代の意識に関する調査結果(オンライン)、入手先 (http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h24/kenkyu/gaiyo/pdf/kekka.pdf),(参照2017-4-20).

3) 井上由起子：地域包括ケアシステムにおける高齢者の住まいの考え方。保健医療科学61(2)：119-124, 2012.

4) 鈴木 晃：高齢者の居住継続支援のための住宅施策—「住まいとケア」の関係を確認したうえで—。保健医療科学58(2)：107-113, 2012.

5) 筒井智恵美, 鈴木 晃, 阪東美智子：介護保険制度における住宅改修の事業評価に関する研究—自立支援からみた改修内容の妥当性と主観的満足感—。日本在宅ケア学会誌7(1)：31-39, 2003.

6) 坂地 潤, 青木健次, 尾形麻里子, 山内 仁, 大工谷真一：退院前訪問指導とは異なる動作方法・住宅改修を行った症例に関する一考察。大阪作業療法ジャーナル22(1):49-52, 2008.

7) 上村智子：介護保険給付の住宅改修に関する設備使用の継続性や安全性の課題。作業療法28(2)：150-156, 2008.

【COI開示】 発表演題に関連し開示すべきCOI関係にある企業はありません。なお、本研究は公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の研究助成をうけ実施した研究成果の一部である。